新築住宅
内覧会開催

VOL.32

白山市相木町地内

open　close

8/2 (sat) 3 (sun)　10:00〜18:00

※完全予約制とさせていただきます。
詳細は、www.zuiun.jp のメールフォームか、
076-213-5505に直接お申込みいただきますと、
詳細情報を返送させていただきます。

zuiun建築設計事務所　zuiun　http://www.zuiun.jp

機能なのか空間なのか。

zuiun便り Vol.30

連日暑い日が続き水分補給した分だけ汗で放出しているんではないかと思う毎日が続いています。この季節、楽しいイベントも多いのですが無理せず体調管理に気をつけたいものです。

さて、今回は建物の中でも特異な場所である階段について考えてみたいと思います。

まず階段とはなんでしょうか。

用途を考えれば高さの違う場所をつなぐ段差の通路です。
つまり平屋以外の多層階の建物であればまず設置されているものと考えてよいでしょう。しかし、平屋でも高低差のある敷地にあわせて内部に数段の段差を設けるような建物もあるため、このような建物も含めるとほとんどの建物に階段が設置されていることになります。

ほとんどの建物に設置され、さらに落下や転倒など平坦な場所に比べて安全が求められる場所のため、階段には守らなくてはならないルールが定められています。
たとえば住宅の階段で考えた場合には幅は75cm以上、けあげ（一段の高さ）は23cm以下、踏面（段板の奥行）15cm以上などが建築基準法で定められています。しかしこれらは最低限のルールであり、実際にこの寸法の階段があっても非常に昇降が怖い階段になると思います。この寸法を角度で表すと約56度ぐらいです。これは壁にはしごをかけて登る時の角度とあまり変わりません。そんな階段イヤですよね。
多少の個人差はありますが階段の理想的な角度は30〜35度程度です。最低基準の約2倍ほど緩やかな階段です。その分スペースが必要ですが、多くの住宅はこの緩やかな階段に近い数字であり、求められているのもこちらの階段ではないでしょうか。

では階段は上りやすく上下階を移動出来ればそれで良いのでしょうか。機能だけを満たすのであればそれで良いでしょうし、どの住宅でも同じ階段が使われているはずです。しかし、実際は上り方や、階段自体の素材もさまざまで、実に多様なモノなのです。

良く目にするのは一直線に上っていく直階段や、コの字型に180度方向を変えて上る折り返し階段などが多く使われています。他には実物より漫画やテレビなどでよく目にする螺旋階段などもありますね。
このように階段でもいくつも上り方に種類があり、どのような上り方をして、どこに配置するかで建物の間取りが大きく変わってしまいます。階段の位置や上り方が悪ければ、同じ面積の住宅でも無駄なスペースが出来たり、動線の悪い間取りになるでしょう

上り方が同じでも求められる役割で階段は姿を変えます。
少しでも収納を確保したい場所にある階段なのか、それとも空間を広く見せたり、解放感がほしい場所にある階段なのか。収納として考えた場合は片づけたモノが見えないように階段下は閉鎖的なスペースであった方が良く、広がりを考えた場合は階段骨組みだけが見えるストリップ階段のように視線が通った方が良い空間となるでしょう。同じ上下階を移動する通路でもまったく異なる見た目と役割をもっているのです。

また、多くの人は真っ暗な通路を歩く時以外に、壁に手をついて歩くということをしないでしょう。しかし、段差のある通路＝階段は明るくても暗くても手を使い手摺を握って歩く場所です。
これは階段は手足に素材が触れる数少ない場所だということです。

手のひらで手摺を握り　足の裏で段板を踏みしめる

このような場所であるならば、階段は単なる昇降する機能として考えるのでは無く、握りやすい形状の手摺や、触れた時に気持ちのよい素材を選択するなど家具をデザインするように考えられても良いのではないでしょうか。実際にその多様な見た目から視覚的なインテリアや、空間のアクセントとしてデザインされることも多く、それらが空間の印象を決めるような存在になっているものもあります。

階段は住宅の中での割合はリビングや個室などの居室に比べるとずっと小さな面積しかありません。しかし、間取りや空間に与える影響は非常に大きな場所です。
階段を「上下階の通路」ではなく「階段のある空間」と考えてみると、また違った家づくりが出来るのではないでしょうか。